

ビワ生育情報

千葉県
平成28年6月号

平成28年5月の気象

平成28年5月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は、第4半旬を除く5半旬で平年を上回った。月平均気温は18.6℃で、平年より0.8℃高かったが、前年より0.3℃低かった。

降水量は、第2、第4及び第6半旬で平年を上回り、第5半旬では降雨がなかった。月合計は142mmで、平年の79%、前年の192%であった。

日照時間は、第2及び第6半旬を除く4半旬で平年を上回り、月合計は218時間で、平年の123%、前年の122%であった。

表1 平成28年5月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	18.8	16.5	18.1	21	23	0	45	30	34
2	18.0	17.2	17.2	29	24	1	21	28	31
3	18.2	17.3	18.7	23	41	9	49	27	35
4	17.4	18.1	19.5	30	22	34	37	28	8
5	20.0	18.4	18.6	0	33	2	49	29	28
6	19.1	18.9	20.8	40	35	30	18	35	43
平均/計	18.6	17.8	18.9	142	179	74	218	177	179

7月の作業（果実の発育は次ページ）

7月に入ると梅雨も明け、本格的な夏を迎える。収穫後に弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んであるが、根の伸びは鈍くなる。7月の作業は夏の乾燥期に向けて草刈り、敷き草、カミキリムシの防除がある。

草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておくのと、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するカミキリムシはクワカミキリが多い。体長は4cm位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生している。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、食害を受けた枝は折れやすくなり、甚だしい場合には枯死する。また食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので注意を要する。成虫は産卵のために、7～8月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。卵は見つけ次第つぶす。

果実の発育

6月1日現在のビワの果径は表2に示した。横径は、「楠」が4.33cm、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ5.39cm、4.87cmであった。本年の横径は、「楠」は平年よりやや小さいが、「大房」及び「田中」は平年より大きかった。

縦径は、「楠」が4.92cm、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ5.62cm、5.67cmであった。本年の縦径は、3品種共に平年より大きかった。

果形指数は、「楠」が0.88、「大房」及び「田中」では3地区の平均がそれぞれ0.96、0.86であった。果形は「楠」及び「田中」は平年より縦長傾向で、「大房」は平年並みであった。

着色程度は、「楠」が3.9、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ4.0、3.3で、3品種共に平年より着色の進みが早い。

暖地園芸研究所では早生品種の収穫は5月上旬から始まり、「楠」は5月21日、「大房」は5月26日、「田中」は6月4日に始まった。本年は開花期以降の気温が高く推移したため、収穫期は3品種共に平年より著しく早い。

本年は平年に比べ、着花房率が高かったが、寒害を被った幼果は多かったため、着果量はやや少ない。病害虫ではクワゴマダラヒトリの発生が平年よりやや多いが、果樹カメムシ類の被害は平年より少ない。そのため、最終的な収量は、平年よりやや少ないと予想される。

本年の果樹カメムシ類の発生は、南房総市ほか県南地域で平年より少ないが、今後の発生は多い見通しである。これから収穫期を迎える園では、飛来に注意を要し、薬剤防除に取り組む。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

表2 果実の発育（6月1日の果径及び着色程度）

品 種	調 査 地	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数			着色程度		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	4.33	4.44	4.41	4.92	4.76	4.44	0.88	0.93	0.99	3.9	3.0	4.0
大 房	青 木	5.16	4.97	4.86	5.59	5.10	5.12	0.92	0.98	0.95	3.9	2.9	4.2
	南 無 谷	5.50	4.98	5.18	5.57	5.15	5.67	0.99	0.97	0.92	3.9	3.0	4.2
	暖地園研	5.52	5.04	5.27	5.71	5.10	5.40	0.97	0.98	0.98	4.1	2.8	4.2
	平 均	5.39	4.98	5.11	5.62	5.11	5.39	0.96	0.97	0.95	4.0	2.9	4.2
田 中	青 木	4.85	4.43	4.72	5.68	4.91	5.00	0.85	0.90	0.94	3.2	1.6	3.1
	南 無 谷	4.80	4.37	4.72	5.78	4.87	5.47	0.83	0.90	0.86	3.2	1.6	3.4
	暖地園研	4.95	4.50	4.74	5.55	4.95	5.33	0.89	0.91	0.89	3.4	1.6	3.1
	平 均	4.87	4.44	4.73	5.67	4.91	5.27	0.86	0.91	0.90	3.3	1.6	3.2

注) 「楠」及び「大房」（3地区すべて）は、収穫日（6月1日以前）の果径及び着色程度を示した

果形指数：横径／縦径

着色程度：1(未着色)、2(黄白色)、3(淡橙黄色)、4(橙黄色)、5(濃橙黄色)

平年：横径、縦径、果形指数は昭和61年～平成27年の30年間の平均、着色程度は平成11年～平成27年の17年間の平均。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>